



医知創造ラボ

介護拒否は『防衛反応』

怒らせないケアの届け方をエビデンスで解説

医知創造ラボ

2026年

介護拒否は日常で最も悩む場面

「お風呂がイヤ」
「口を開けてくれない」
「手を振り払う」

介護拒否は、最も日常的で、最も対応に悩む

① | 入浴拒否

② | 口腔ケア拒否

③ | 服薬拒否

臨床疑問

**Q. 介護拒否は
『わがまま』『問題行動』か？**

A.

わがまま

B.

問題行動

C.

防御反応

介護拒否の捉え方

防御反応

わからないこと・脅かされることから
自分を守ろうとする反応



変えるのは患者ではなく、ケアの届け方

Chapter 01

介護拒否とは何か

用語と評価尺度

介護拒否の定義

Rejection of care / resistiveness to care

ケアへの抵抗行動

本人の内的状態・ニーズ・環境・
ケアの届け方の相互作用から生まれる現象

介護拒否は『測れる』

尺度



尺度:
Resistiveness to Care Scale (RTC-DAT)



項目数:
13 項目



スコア範囲:
0~156 点



信頼性:
内的整合性 **0.82~0.87**

拒否は 『測れる』



改訂版RTC-rは評価者間信頼性 **0.87~1.0**



Chapter **02**

なぜ拒否が起きるのか

4つの引き金と7要素

誘因と行動の対応

誘因（トリガー）

引き起こされる行動

身体的unmet needs・情動的苦痛



非攻撃的な行動

予告なしの直接的なケアアプローチ



ケア拒否・抵抗・抗戦

自己決定を妨げる対人交流



攻撃的な行動

制御されない環境刺激



非攻撃的な行動



 ① ピットフォール

『いきなり』が 拒否のスイッチを押す



突然 予告なしに
身体を動かす

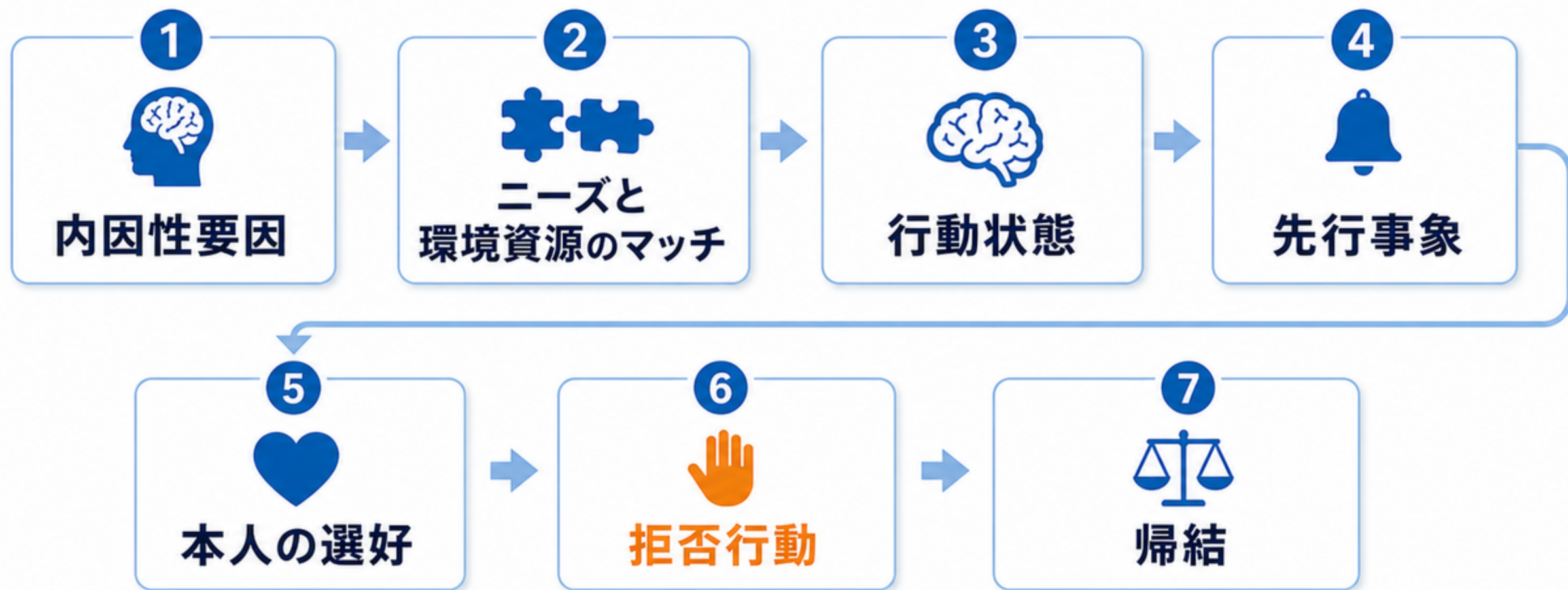


説明なしに
口に物を入れる



本人のペースを
無視する

介護拒否を分解する7要素 (Ishii framework)



重症度と介護拒否

重症度で 増える

メタ解析：重症度認知症・軽度～中等度より
介護拒否が出現しやすい



Chapter 03

体系的アプローチ — DICE

Describe / Investigate / Create / Evaluate

DICE

DICEの4ステップ



症例：入浴拒否



Aさん

82歳 女性

アルツハイマー型認知症

D
Describe
(記述)



夕方、男性介助者が予告なしに
浴室へ誘導し大声で叫び腕を払う

I
Investigate
(調査)



本人の入浴習慣・寒がり・
同性介助を好む可能性

C
Create
(計画立案)



朝に変更・同性介助・
浴室を温める・予告と選択肢

E
Evaluate
(評価)

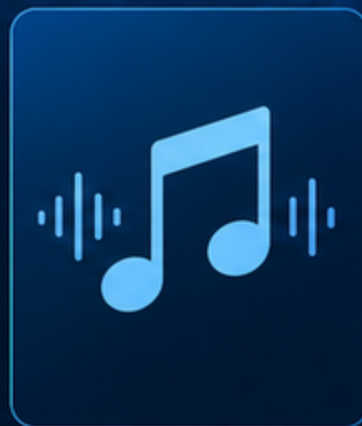


拒否頻度と表情で評価

Chapter 04

場面別エビデンス

入浴・口腔ケア・音楽



入浴ケアの変更

攻撃

53~60%減

Person-centered showering / towel bath の
RCT (対照群は減少なし)



$p < .001$ ・ 15施設 ・ 73例



職員教育プログラム

抗精神病薬 30%減

Bathing Without a Battle
(職員教育プログラム・N=240)



言語的興奮

17.8%減
($p=.008$)



抗精神病薬

30%減
($p=.002$)

場面別エビデンス

場面	介入	エビデンス
 口腔ケア	MOUTH (脅威低減技法)	OHAT改善・RTC減少傾向 ※p=.06パイロット
 全般	音楽介入	19研究レビューで音楽9件すべて有意
 入浴	person-centered care	4件中3件で有意

③ Take Home



① 拒否には必ず**理由**がある
(まず記述し、調べる)



② 変えるのは患者ではなく、
ケアの届け方と環境



③ 薬は非薬物を尽くした後の
限定的手段



医知創造ラボ



[PMID:21450222][PMID:25731881][PMID:24697702]